

病 防 第 169 号  
平成 31 年 4 月 25 日

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
( 公 印 省 略 )

### 病害虫発生予察特殊報について

平成 31 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号を発表したので送付します。

### 平成 31 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

1 病 害 名 : マンゴーすす点病

2 病 原 菌 : *Stomiopeltis* sp.

3 発 生 地 域 : 沖縄県全域

4 発 生 作 物 : マンゴー

#### 5 発生確認及び発生状況

平成 26 年 6 月、本島南部の施設栽培のマンゴーで、まだら果や緑枝のすす斑症状が確認された(図1、2)。このため、沖縄県病害虫防除技術センター及び沖縄県農業研究センターにおいて分生子及び分生子柄などの形態的特徴並びに rDNA-ITS 及び LSU 領域の遺伝子解析を行った結果、*Stomiopeltis* sp.による病害であることが明らかとなり、マンゴーにおいてすす斑症状を引き起こすことが国内外で初めて確認された。その後、平成 31 年 3 月の病害虫防除技術センターの予察調査では、沖縄本島、宮古島及び石垣島のマンゴー施設で本種の発生を確認している。

#### 6 病 徴

果実ではワックス層が消失し、まだら症状を示す(図1)。緑枝では黒色のすす斑症状が認められる(図2)。また、果実と緑枝の表面には針頭大の隆起した黒色の子のう果が多数認められる(図3)。

#### 7 病原菌の特徴と伝搬方法

糸状菌の 1 種で子のう菌類に属する。子のう果は褐色、円形～レンズ形、頂端に円形の孔口を有する(図4)。子のうは無色、こん棒形であり、8 個の子のう胞子を内包する(図5)。子のう胞子は無色、こん棒状形、2 細胞である(図6)。品種による感受性の違いや病原菌の伝染環についての詳細は不明である。

#### 8 防除対策

- (1) 発病は多湿条件で助長されるため、透光・通風を良くし、施設内の湿度管理に注意する。
- (2) 発病部位は速やかに除去し、施設外に持ち出し感染源とならないように適切に処分する。



図1. 果実のまだら症状



図2. 枝のすす斑症状



図3. 果実上の子のう果



図4. 子のう果

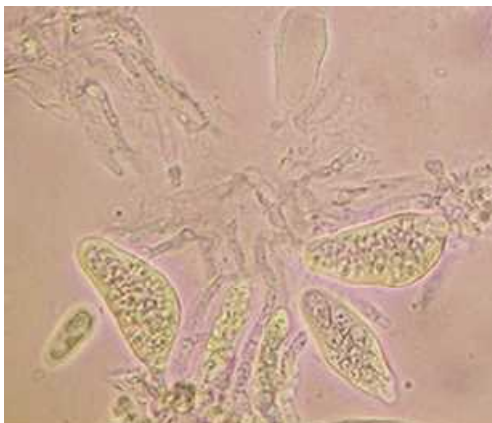


図5. 子のう



図6. 子のう胞子

---

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>